

事業所における自己評価結果(公表)

対象職員8名 回収8名  
回収率100%

公表:令和 2 年 3 月 1 日

事業所名 きらり玉島

		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	○		パーティションにより、小集団や個人で過ごせるスペースを設けている。	
	2	○		一人ひとりに合わせた活動を展開できるように、職員を配置している。	配置数は適正。12月に新たに職員1名を配置し、仕事の適性を図っている。
	3	○		特性や発達に応じた環境設定を行なうよう日々努めている。	必要に応じバリアフリー化も検討する。(事業所移転も視野に入れる)
	4	○		毎日の清掃と共に安全点検表を用いて危険な箇所がないかチェックしている。また玩具消毒等も毎週行っている。	同上、及び衝立や床の老朽化に対する手立て(張り替えや、色塗り等)を行う。
業務改善	5	○		書面で参画している。どの職員でも確認できるようにしている。	正規職員以外も参画できるようにする。
	6	○		日頃から頂いているご意見は、職員間で周知し、改善に向けて対応している。また、勉強会や茶話会では、事前にアンケートを行い、ご意見を受けて計画している。	
	7	○		自己評価を行い、結果を法人のホームページ等で公表している。今回も公表予定。	分からないという回答が2名。自己評価を行い結果を公表している事をきちんと見える化し、伝えていく。
	8	○		外部評価を行い、結果を法人のホームページ等で公表している。	分からないという回答が2名。第三者による評価の結果を知らせるだけでなく、業務改善につなげていく事に積極的に参画してもらう。
	9	○		法人内研修は定期的実施している。また、事業所内研修は隔月で実施している。	
適切な支援の提供	10	○		定期的にあセスメントを実施し、支援計画書に活かしている。また、保護者からのニーズも懇談等を通して伺っている。	
	11	○		標準化されたツールを活用している。補足で聞き取りを行っている。	
	12	○			
	13	○			
	14	○		全職員で会議を開き、活動プログラムを計画、立案している。	どちらともいえないが2名。プログラムの立案手順を再度認識して頂く。
	15	○		課外活動等も入れながら、対応している。必要なお子さんには繰り返しの固定した活動も実施している。	どちらともいえないが1名。固定化と、繰り返し活動の意義をきちんと説明する。
	16	○		アセスメントに基づいて、必要なお子さんには組み合わせる支援計画を立案している。	

		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼やノート等を活用し、職員間で周知を図っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼やノート等を活用し、職員間で振り返り、支援の方向性等を確認したり、支援内容を周知したりしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的に支援計画の進捗を確認し、見直しを行っている。	モニタリング時には、計画の見直しができる様な判断材料の提供を促す。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者、管理者が主に参加している。	分かりませんが2名。担当者会等の外部会議への参画者に付いて事前に周知する機会を設ける。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		母子保健連絡会に参加をしている。	分かりませんが1名。同上。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	非該当			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	非該当			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		状況表のやりとりや訪問等を通して、情報共有を行っている。	どちらともいないが1名。支援内容について情報の共有をしている事がどのように支援に繋がっているかをきちんと伝える。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		学校訪問や引継ぎを行なっている。	同上。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	法人内のセンターとは連携を図り、助言や研修を受けている。地域のセンターとも必要に応じて連携を図っている。	センター等の研修に参加出来る機会を増やす。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	課外活動の中で、地域のお子さんとの交流を図っている。	所属園がある為、特に機会を持っていないが、機会があれば、参加する。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			分からないが1名。参加していることを周知していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に時間を設けることや、随時懇談等を行い、対応している。	どちらともいえないが1名。伝え合った内容を、職員個々に共有できるようにすることで共通理解に繋げる。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		年間で2クール、実施をしている。		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			分かりませんが2名。入所時に取り交わす書類等について周知する。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			

		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		懇談、家庭訪問、送迎時や連絡帳のやりとりを介して、対応している。	分かりませんが1名。適切な助言、支援が行えるよう職員のスキル向上と、職員の保護者への支援の統一化を図る。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	勉強会、茶話会等を実施し、保護者同士が関わることが出来る場を提供しているが、出来る人との格差がある。	保護者からのニーズを聞き、多くの方が参加出来る内容、実施回数、日時等を検討する。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		対応の体制をマニュアルにし、整備している。また、相談窓口(人や場所等)を事業所の玄関に掲示し、保護者が確認できるようにしている。	常に迅速かつ適切に相談に対応出来るよう人員の体制を整える。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月1回、きりり通信を発行し、次月の予定や連絡事項等を記載している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		鍵付の書庫に管理している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		お子さんが活用できる手段を用いて、自分の気持ちを伝えられるようにしている。保護者に対しては、必要に応じて、書面やメール等、直接的なやりとり以外も対応している	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	法人として全体では実施している。	事業所としては不十分。地域の行事に参加したりすることから始め事業について知ってもらう機会をつくる。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		毎月、マニュアルに沿って訓練を実施している。訓練後は、改善点を職員間で話し合い、マニュアルの見直しを行ったり、次月の訓練に活かしている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		上記と同様。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		契約時に必ずアレルギーについて確認をしている。事業所からの食事提供を希望される方は、事前に栄養士と面談を行っている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事故やヒヤリハットが起きた場合は、書面化し、対応策について職員間で周知している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		全職員に研修を行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		現在は、対象児はいないがマニュアルを作成し記載している。また、職員への指導は行なっている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。